

<白金標準、見直し相場で関心は需給へ回帰・・・>



(出所：オアシス)

貴金属は、雇用統計に続き、消費者物価指数、小売売上高を受け、将来的利上げ観測が後退し、一時 50%まで上がっていた利上げ確率が、30%まで低下し利上げ確率の低下と共に、ドル建て白金価格は一時 1795 ドルまで高値を試している。特に中東情勢で NY 白金は一時 1539.6 ドルまで下値を試すも、1600 ドルで 1 ヶ月間の底固めを行い、1700 ドルを回復すると 1800 ドルに近付く値動きを見せている。特に貴金属で唯一供給不足の商品である白金価格は、外的な要因である金利や中東情勢などを受け、需給を無視した値動きを見せるなど、売られ過ぎの反動を強めている。

特に白金標準先物も 7 月に 7714 円まで下値を試すも、7 月で 8200 円を固めると 8800 円を回復し、6 月の戻り高値である 9197 円に向けて 9106 円を試している。そのことから金利や中東情勢の弱気の要因を織り込み、3 月のイラン戦争の勃発から下げ続けた白金相場が出直りを見せており、10000 円へ向けた回帰相場を続ける可能性は強まっている様に思える。

そのため 8800 円以下は強気のタイミングで、売り込む事は避けた方が良いと思え、年後半に向けた 10000 円を考慮して強気の対応が妥当に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が上昇し、**シグナル**は上昇している。RCI では**短期**が下げ止まり、**長期**が高値を維持している。特に指数平滑移動平均線のレンジを日足が上回っており、9106 円の高値を試す値動きに思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,175,000 円(2026 年 8 月 17 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 5 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 97,680 円(2026 年 8 月 17 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>